

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりの生徒を大切に、豊かな人間性と確かな学力、課題解決能力を育み地域との連携を推進しながら、地域に貢献し地域で活躍するリーダーをはぐくむ学校

1. 高い志を持って、人のため社会のために尽くし、共に学び、ともに進歩・成長する人材を育てる学校

2. 基礎的な知識や技術を習得し、それらを活用して自ら考え、実践を通じて深く学び表現する力を育てる学校

3. 他者の大切さを認め互いに助け合い、よりよい社会を創っていく責任感と規範意識を持ち、自立して社会を支える力（豊かな人間性）を身に付けた社会に貢献できる人材を育てる学校

4. 羽曳野市唯一の高等学校として、地域連携（地域とともに、「学び」、「歩み」、地域に貢献し、地域から信頼され、地域で活躍する）を推進する学校

2 中期的目標

- 1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成
- （1）生徒の「学ぶ力」を最大限に伸ばす教育課程の編成と授業力の向上を図る。
- ア 「学び」の楽しさに気づかせ、毎日の学習習慣を身につけさせること。
- イ すべての授業において、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させること。
- ウ 生徒の主体的な「学び」へつながる授業研究と観点別評価を行い、授業の改善と充実を図る。
- エ 1人1台端末やICTを活用した授業内容の点検・改善を図る。
- ※授業アンケート（2回）の学校平均3.25（R5：3.23、R6：3.19、R7：3.23）をめざす。
- 2 知・徳・体の調和のとれた教育により、豊かな人間性をはぐくむ
- （1）規範意識醸成のため、あいさつ運動やマナー向上の全校的取組みを推進する。
- ア 家庭との連携のもと、生徒一人ひとりの課題に向き合った生徒支援に取り組む。
- イ 挨拶が飛び交う明るい校内環境の醸成に取り組む。
- ウ ルールやマナーを遵守し、モラルを高めるための「心の教育」の充実を図る。
- （2）生徒一人ひとりが安心して安全な学校づくりをめざす。
- ア 教育相談体制を充実させるとともに、学校と家庭が緊密な連携と情報共有を行いながら生徒を支援する。
- イ 教員がカウンセリングマインドを持って生徒を支援し、生徒との信頼関係を築いた教育活動を行う。
- （3）豊かな人間性の形成に寄与する人権教育を展開する。
- ア 生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性をはぐくむとともに、人権が行き届いた安全で安心な学校の環境を醸成する。
- ※学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合90%以上（R5：83.5%、R6：90.1%、R7：89.9%）、「気軽に相談できる先生がいる」生徒の割合75%以上（R5：73.6%、R6：67.8%、R7：72.0%）、「人権について学ぶ機会がある」生徒の割合85%以上（R5：86.7%、R6：84.1%、R7：89.8%）をめざす。
- 3 「志」や「夢」をはぐくみ、自己実現の達成を図る
- （1）進路目標設定から進路実現まで3年間を見据えたキャリア教育を中心とした進路指導を展開する。
- ア 生徒の進路実現に向けた進路指導體制を構築して、講習・補習などの手厚い学力支援体制を確立するとともに、キャリア教育の一環として英語検定等の外部検定に生徒がチャレンジすることを一層促進する。
- イ 近隣大学（四天王寺大学・関西福祉科学大学等）や関係機関等との連携を通して、生徒が進路意識を高め、進路実現のための学習や体験ができる機会を確保する。
- ※学校教育自己診断における「将来の生き方について考える機会がある」生徒の割合90%以上（R5：88.5%、R6：89.1%、R7：89.8%）をめざす。
- 4 地域と連携した魅力のある学校づくり
- （1）地域、学校教育活動に関連した関係諸機関との連携を学校の教職員・生徒があらゆる場面で充実させていく。
- ア PTAやNP0等と連携し、地域の福祉活動・環境保全活動に取り組む。
- イ 地域の外部人材や施設を活用し、体験的な授業や講座を開催する。
- ウ 生徒や教員が地域に出向き積極的な交流を図る。
- ※学校教育自己診断における「大学の先生をはじめとして外部の先生から授業を受けたり話を聞く機会がある。」生徒の割合90%以上（R5：81.2%、R6：87.3%、R7：89.4%）をめざす。
- 5 労働安全衛生管理体制の充実
- （1）大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。
- ア 校務運営について業務の見直しやICTを用いて効率化を図る。
- イ 部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定し、適切な指導・運営体制を構築する。
- ウ ゆとり週間等の取組を通じて、休暇を取得しやすい環境を整備する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成	(1) 基礎的な学力の定着と主体的で対話的な深い学びをめざした授業改善の取組みを推進する。	(1) 教員の指導力の向上を図るとともに、生徒に学習習慣を身につけさせる。企画委員会、学ぶ力育成委員会が中心となり、アからエに組織的に取り組む ア 授業を中心とする学びの確立 ・「授業力向上のためのパッケージ支援」活用、年間2回の授業公開などにより、全校をあげて授業改善に取り組む ・授業アンケートの実施とその分析及び課題解決に取り組む。 イ ICT 活用の推進 ・ICTを活用したわかりやすい授業づくり ウ 校内教職員研修の充実 ・ICT活用研修、進路指導研修、経験年数の少ない教員に対するOJTや経験の豊かな教員による研修の実施 エ 専門コースと系の特色づくり ・外部機関と連携した体験学習やグループワーク・プレゼンテーションの工夫 ・専門コース科目「サービスラーニング基礎・実践」など、専門コースの科目編成、内容の点検・改善	(1) ア ・授業アンケートによる肯定的評価80%台維持 [2回平均84.4%] ・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」生徒の肯定率 80%台維持[80.3%] ・学校教育自己診断「授業でわからないことを先生に質問しやすい」生徒の肯定率 80%台をめざす[75.1%] イ・学校教育自己診断「ICTを活用し、わかりやすい授業をめざしている」教員の肯定率 90%台維持[91.3%] ・学校教育自己診断「プロジェクターやプリントなど補助教材を活用したわかりやすい授業が多い」生徒の肯定率 90%台維持 [92.0%] ウ・校内研修の実施回数3回[3回] ・学校教育自己診断「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」教員の肯定率 70%台維持 [75.0%] エ・学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」生徒の肯定率 75%をめざす[72.9%] ・学校教育自己診断「自分が学びたいと思う系列・コースや選択授業がある」生徒の肯定率 75%以上維持[76.6%]	
2 知・徳・体の調和のとれた教育をとおし豊かな人間性をはぐくむ	(1) 生徒一人ひとりに生き方あり方を探求させ、豊かなところと規範意識を醸成させる	(1) 規範意識の醸成 ア・あいさつの励行 ・毎朝の「おはよう運動」、年3回のあいさつ週間(各1週間)を実施。 イ・今日的な課題に柔軟に対応した生徒指導 ・遅刻、身だしなみ、マナーなど規範意識を醸成する指導を全校的に行う。 (2) 教育相談体制の充実 ア・教育相談委員会を中心に生徒情報の共有化を行い、課題を抱える生徒や支援が必要な生徒に対して迅速な対応を行う。 イ・SCおよびSSW等の専門家と協力し、課題を抱える生徒の支援を重点的に行う。 (3) 人権教育の推進 ア・あらゆる教育活動の場において、人権感覚を育成する取り組みを行う。 イ・「いじめへの対応」の学校信頼度を上げるとともに、外部人材を活用するなど「人権尊重の大切さについて学ぶ」機会を増やす。	(1) ア・学校教育自己診断「挨拶をする」生徒の肯定率 90%台をめざす[89.9%] イ・学校教育自己診断「学校生活における先生の指導は納得できる」生徒の肯定率 80%台をめざす[79.3%] (2) ア・学校教育自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」生徒の肯定率 80%台維持 [83.5%] イ・学校教育自己診断「学校はカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」教員の肯定率 70%台をめざす [69.6%] (3) ア・学校教育自己診断「人の生き方・命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会がある」生徒の肯定率 90%台をめざす[89.9%] イ・学校教育自己診断「いじめについて困っていることがあれば先生は真剣に対応してくれる」生徒の肯定率 80%台維持[83.1%]	
3 自己実現の達成を図る 「志」や「夢」をはぐくみ、	(1) 自己(進路)実現に向けた進路指導の充実	(1) 生徒の進路意識の高揚や、自己(進路)実現の達成 ア・キャリア教育を中心とした進路指導 ・進路体験行事、懷風館セミナー(大学等の出前講義)等の実施及び進路情報の提供 イ・補習や進学講習などの機会を充実させる ・教育産業とも連携しながら、生徒の希望進路の実現に向けた意識を高める。	(1) ア・学校教育自己診断「進路についての情報提供がされている」生徒の肯定率 90%台維持[92.1%] イ・学校教育自己診断「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の割合 50%以上をめざす [43.6%]	

4 地域と連携した魅力のある学校づくり	(1) 地域密着型高校としての広報活動 (2) 地域と連携した取組みの推進	(1) 在校生の学校生活を充実させる一助となるよう生徒、保護者、地域住民向けに学校ブログや SNS で情報発信する。 (2) 福祉ボランティアや地域と連携した活動等で生徒が地域に出る体験活動を推進する。	(1) 日常的な学校の様子を発信：校長ブログ週 1 回以上更新、SNS 1 日 1 回以上更新 [校長ブログ 56 回、SNS600 回] (2) ・地域清掃や地域と連携した体験活動を毎学期 1 回以上実施[8 回] ・学校教育自己診断「他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある」生徒の割合 60%台維持 [65. 6%]	
5 労働安全衛生管理体制の充実	(1) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する	(1) ア・ICT を活用した業務の効率化、行事や会議の精選を検討し、学校運営の見直しを図る。 イ・部活動の年間・月間活動計画、実績報告をもとに適切な休養日確保を徹底し、方針に則った適切な活動とする。 ウ・ゆとり週間・月間の徹底に取組み年休取得を促進する。	(1) ア・年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする。 イ・年間時間外在校等時間が 360 時間を超える人数を前年度よりも減少させる。[12 名] ウ・年次有給休暇の平均取得日数を 16 日以上にする。	